

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-85	高等学校	地理歴史科	地理総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
第一183	地総706	高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる		

1. 編修の基本方針

1. 地理を学ぶ意義がわかる教科書

世界を広くグローバルにとらえながら、世界各地の特色ある生活文化や世界各地で見られる地球的諸課題、自然環境と防災などについて、その地域性や他地域・自然環境との結びつきといった地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察することで、現代世界に対する地理的認識を深めることができました。

2. 地理の学習方法がわかる教科書

読みやすく平易な本文記述に加え、ワイドな紙面を活かして豊富な図・写真を掲載しました。与えられた「問い」に対し、写真や資料をもとに考察を深め、得られた結論を再度冒頭の「問い」に立ち戻る「ふりかえろう」を設けた紙面構成のもと、どのように学習していけばよいか、自然と身につくようにしました。

3. 地理的な見方・考え方が身につく教科書

豊富に掲載した図や写真に対し、作業や考察を促す「TRY」に、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域といった地理的な見方・考え方の視点を表示しました。目次では、それぞれの見方・考え方に関連した問いかけを例示しているほか、各章における「TRY」は、中心的な見方・考え方に關するものが多くなるよう配慮しており、教科書全体を通して地理的な見方・考え方が身につくようにしました。

4. 持続可能な社会への地理の役割がわかる教科書

前見返しでは、持続可能な社会に向け、地球上で見られる課題を広く概観するとともに、第2編2章の地球的課題と国際協力では、SDGsの17の目標と学習課題の関連性をつかみやすいようにしました。また、学習のまとめとして、カンボジアを事例に地域的な課題解決にSDGsの観点が有効であることを示し、地理を学ぶことが持続可能な社会の構築につながることを示しました。本書の最終ページにあたるp.220-221の地域調査のワークでは、持続可能な観光地づくりに向け、社会参画にもつながるよう配慮しました。

5. 主体的・対話的で深い学びにつながる教科書

作業的・体験的な学習をとまなう全14の「ワーク」や図・写真に対する問いの「TRY」、章末の「学習を深めよう」などを通して、話し合いや発表などの対話的な学習を設定しています。また、地理院地図をはじめとした地理情報システムの活用を促すとともに二次元コードによるWeb活用がしやすい構成をとり、主体的に学習に取り組む態度が養えるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し 「持続可能な社会を目指して」	<ul style="list-style-type: none"> 地球上看られるさまざまな課題を概観し、これから始まる地理の学習を通して、その課題解決への糸口をイメージできるように構成しました（第4号・第5号）。 	前見返し
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球上の世界と地図 2節 国家の結びつきとグローバル化する現代社会	<ul style="list-style-type: none"> 「ワーク」を設け主体的に作業的かつ体験的な学習に取り組むことで地理学習に必要な地理的技能を身につけることができました（第1号）。 学習の最後には振り返りの場面を設定し、自分のことばで理解した内容を表現したり、意見交換したりすることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるようにしました（第2号）。 地理学習に用いる地図は距離や面積などすべてを正確に示したものではないことを理解することで、所与の条件の中で真理を求める態度を養えるよう配慮しました（第1号）。 地理情報システムの有用性を理解し、地理院地図を自ら学習の中で活用できるようになることで、創造性と自主自律の精神を養えるよう配慮しました（第2号）。 日本の領土をめぐる問題を取り上げることによって、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました（第5号）。 現代社会は交通や通信などの発達によって利便性を増す反面、依然として課題があることを知り、その課題解決に向け主体的に考察する態度を養えるようにしました（第1・第3号）。 	p. 11, p. 14, p. 21, p. 24 - 25, p. 32, p. 33 p. 7 - 41 p. 12 - 15 p. 18 - 20, 22 - 23 p. 28 - 29 p. 34 - 41
第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解 2章 地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> 「ワーク」を設け主体的かつ対話的に作業的な学習に取り組むことで地理学習に必要な地理的技能を身につけることができました（第1号）。 学習の最後には振り返りの場面を設定し、自分のことばで理解した内容を表現したり、意見交換したりすることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるようにしました（第2号）。 日本や世界で見られる特色ある生活文化を衣食住や産業、宗教、文化などの観点から大観することで、幅広い知識と教養を身につけ、現代社会に生きる上で必要な真理を求める態度を養いつつ、多様な世界における異文化理解の重要性を深く認識し、自他の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにしました。（第1号・第5号）。 世界各地の多様な生活文化はその地域の気候によって彩られていることを理解することで、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにし 	p. 108 - 109, p. 121, p. 162 - 163 p. 43 - 161 p. 52 - 105 p. 44 - 51

	<p>ました。(第4号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業の発展は生活利便性の向上だけでなく、雇用の拡大という面も重要であることや、地域の地理的環境に即した地場産業もグローバル化の中で新たな産業に成長することが期待されていることを学ぶ中で、職業と生活の関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにしました(第2号)。 ・国外の人に地域の良さを伝えるという課題に取り組むことで、自らの郷土のよいところと課題として残っていることを再認識し、将来に向け主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました(第3号・第5号)。 ・貧困問題や人口問題、食料問題、健康・福祉問題、教育・ジェンダー問題などについて理解を深める中で、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました(第3号)。 ・資源の偏在性と有限性について理解し、エネルギー問題の解決に向けた取り組みを学ぶ中で、持続可能な産業化に必要な技術革新に向けた創造性を培い、自主及び自立の精神を養えるようにしました(第2号)。 ・地球温暖化問題を題材に現役世代と将来世代のための地球環境について学習することで、他者を慮る道徳心を培い、将来に向けて自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました(第1号・第4号)。 ・地球的課題の解決に向け、国際協力の必要性を取り上げることで、国際社会の持続可能な発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮しました(第5号)。 ・これまで学習してきた世界の生活文化や地球的課題の知識をもとに特色ある主題を設定して探究的に学習する「学習を深めよう+PLUS」に取り組むことで、より幅広い知識と教養を身につけ、他国の文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第1号・第5号) 	<p>p. 80 - 87</p> <p>p. 108 - 109</p> <p>p. 114 - 129</p> <p>p. 130 - 137</p> <p>p. 144 - 151</p> <p>p. 160 - 163</p> <p>p. 164 - 179</p>
<p>第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 2章 生活圏の調査と地域の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワーク」を設け主体的かつ対話的に作業的な学習に取り組むことで地理学習に必要な地理的技能を身につけることができました(第1号)。 ・学習の最後には振り返りの場面を設定し、自分のことばで理解した内容を表現したり、意見交換したりすることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるようにしました(第2号)。 ・地震や火山噴火といった自然災害は地域的に偏って分布していることを知り、地球規模で見る地形の姿からその背景を理解することで、幅広い教養と真理を求める態度を養えるようにしました(第1号)。 ・日本の自然環境と人々の生活は、自然災害と密接に関連しており、その対策には普段からの心構えと備えが必要なことを示し、自然とともに生きる態度を 	<p>p. 197, p. 206, p. 207, p. 218 - 219, p. 220 - 221</p> <p>p. 183 - 217</p> <p>p. 182 - 183</p> <p>p. 184 - 195, p. 198 - 205</p>

	<p>養えるよう留意しました（第4号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、古くから霞堤や水害防備林などの自然災害対策がとられていたこと、また火山噴火に臨んできた先人の知恵を取り上げることで、自然を大切にするとともに、自然との共生のために培われてきた我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮しました（第4号・第5号）。 ・持続可能な社会を目指して、個人が地域社会の一員としてできる災害への備えについて具体的に扱い、地域社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました（第3号）。 ・持続可能な社会に向け、身近な地域の諸課題を調べ、考察し、構想する学習を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました（第3号）。 	<p>p. 194 - 195, p. 205</p> <p>p. 208 - 209</p> <p>p. 212 - 221</p>
--	--	---

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・書体はユニバーサルフォントを用いたほか、図版や地図の作成にあたってはすべての生徒にとって学びやすいカラーユニバーサルデザインに配慮しました。
- ・欧文略語のもととなったアルファベットは太字で示したほか、重要用語の英語表記を併記して、教科英語へのつながりに配慮しました。
- ・各章で中心となる「地理的な見方・考え方」に関する問いかけ（「TRY」）が多くなるよう配慮しました。
- ・理解をより深められるよう、各章末にはこれまでの学習をふまえて課題を探究する「学習を深めよう」を設けました。
- ・学習内容に関する豆知識を紹介した「地理のスパイス」を左ページ欄外に設け、幅広い知識・教養の獲得に意を図りました。
- ・広い紙面を有効に活用するため、ページの開きがよく耐久性も高いPUR製本を採用しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-85	高等学校	地理歴史科	地理総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
第一183	地総706	高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 地理的な見方・考え方にに基づき、主体的・対話的に学習できる教科書

- ・地図や主題図の読図、写真の読み取りなどの地理的技能が身につく作業的・体験的学習ができる「ワーク」を設けました。学習の過程を通して、ペアやグループで話し合ったり、インターネットを使って調べたり、考察したことを発表したりする力が身につくように配慮しました。
- ・図版や写真に関連した問いかけである「TRY」を140か所以上設けました。それぞれ、「地理的な見方・考え方」の主な視点別に色分け表示しており、それぞれの章では、学習指導要領の中項目ごとに例示されている視点が割合として多くなるよう配慮しています。

地理的な見方・考え方の主な視点	色	1編 1章	2編 1章	2編 2章	3編 1章	3編 2章
位置や分布	黄色	9	10	7	3	0
場所	緑色	2	13	3	3	0
人間と自然環境との相互依存関係	水色	0	16	10	6	0
空間的相互依存作用	紫色	5	14	10	0	0
地域	桃色	3	10	20	4	0
	計	19	63	50	16	0

*色網は学習指導要領に例示された中項目の中心的な視点

2. 持続可能な社会に向けた行動につながる教科書

- ・第2編2章の「地球的課題と国際協力」は国際連合の持続可能な開発目標（SDGs）の5つのPに沿って節を構成し、節の冒頭にはSDGsの17の目標のうち、学習内容に照らして該当する項目を明示しました。持続可能な社会に向けた国際社会の抱える諸課題とその解決に向けた取り組みを体系的に学習することができるとともに、足元からの行動（Act locally）の実践を促す構成になっています。
- ・自然災害への備えとして高校生が取り組むことのできる、インターネットも活用した各種ハザードマップの事前確認とマイトimelineの作成や地域社会における共助の担い手としての能力の発揮など、地域社会への参画に向けた第1歩を踏み出しやすいよう配慮しています。また、地域調査の事例には、持続可能な観光地づくりを課題として設定しており（p. 220 - 221）、地域の課題の調査からあるべき社会の考察、構想、表現までスムーズに取り組める構成としました。

3. 探究的な深い学びにつながる教科書

- ・各章末には学習内容を踏まえさらに探究的に学びを深められるよう、「学習を深めよう」を設けました。より理解度を深め定着させるよう、1人で考察するだけでなく、ペアやグループで話し合ったり発表したりする活動を交えています。
- ・2編の末尾には「学習を深めよう+PLUS」を設けました。特色ある生活文化として気候や衣食住、産業、宗教、文化を学び、さまざまな地球的課題と国際協力について学習したのち、それぞれの地理的事象を主題として設定し、具体的な事例をもとに考察を深めるための特集ページで、主題ごとに地理的な見方・考え方に基づいた問い、振り返りを設定して、探究的な学びにつながるよ

うに配慮しています。

4. 防災・減災の重要性が理解できる教科書

- ・自然環境と防災を学習するにあたり、プレートテクトニクスの考え方が理解できるよう地球規模の地形の特徴について扱いました。そのうえで、日本の自然環境の特徴でもある、自然災害が多発する変動帯と湿潤地域に焦点を当て、丁寧に地震や火山噴火、風水害のメカニズムとそれに対する備えを解説しました。
- ・1編1章で学習した地理情報システムの知識を活用した、国土地理院の地理院地図や気象庁のホームページのほか、各種地図サイトを利用した防災への取り組みを紹介しています。高度情報社会における防災でのICTと地理情報システムの活用により、高校生が世代をつなぐ役割を担うことができることを紹介しています。

5. 地理学習が楽しくなる教科書

- ・メリハリをつけたレイアウトに700点以上の写真を掲載して、世界の地理的事象に対する興味・関心を喚起するよう配慮しました。また、親しみを覚えられるよう、丸みを帯びたレイアウトで写真を掲載するとともに、丁寧に解説文を用意し、必要に応じて写真上に文字情報を加え、見ているだけでも地理的事象に関する知識・教養が身につくように配慮しました。
- ・世界の特色ある生活文化として、定番の衣食住や宗教だけでなく、生活を彩る気候、暮らしを豊かにする産業、暮らしを楽しむための文化のように、さまざまな観点から世界の生活文化を学習することができるよう工夫しました。文化では、祭りや観光だけでなく、スポーツや音楽など、従来地理ではあまり扱ってこなかった題材も積極的に教材化し、地理的な事象の幅広さと奥深さ、そして面白さを感じられるようにしました。
- ・本文の書体にはユニバーサルフォントを用い、図や地図はカラーユニバーサルデザインの観点から制作しています。また、参照ページを丁寧に付しており、独立した地理的事象が別の学習項目で改めて関連してくることが理解できるように配慮しています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数	
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	大項目A 中項目(1) (1)ーア(ア)(イ)(ウ), (1)ーイ(ア)(イ)			
1章 地図や地理情報システムと現代世界				
1節 球面上の世界と地図				
①目的地への行き方			p. 6-7	1
②地球上の位置			p. 8-9	1
③世界の時差			p. 10-11	1
④世界地図の見方・使い方			p. 12-15	1
⑤地図から読み取る情報			p. 16-17	1
⑥デジタル化された地図			p. 18-19	1
⑦地理情報システムの活用			p. 20-25	2
2節 国家の結びつきとグローバル化する社会				
①国家の領域と国境			p. 26-27	1
②日本の領域とさまざまな領土問題			p. 28-29	1
③国家をこえた結びつき			p. 30-33	2
④交通機関の発達と縮小する世界			p. 34-35	1
⑤情報・通信で一体化する世界		p. 36-37	1	

⑥拡大する世界の貿易と物流		p. 38-39	1
⑦グローバル化と人の移動による結びつき		p. 40-41	1
2編 国際理解と国際協力			
1章 生活・文化の多様性と国際理解			
①世界の生活・文化を写真でつかもう		p. 42-43	1
②人々の生活に彩りを与える気候		p. 44-51	2
③「衣」から見る世界	大項目 B	p. 52-59	2
④「食」から見る世界	中項目 (1)	p. 60-71	2
⑤「住」から見る世界	(1) - ア (ア) (イ),	p. 72-79	2
⑥暮らしを豊かにする産業	(1) - イ (ア)	p. 80-87	2
⑦宗教と人々の暮らし		p. 88-97	2
⑧暮らしを楽しむための文化		p. 98-105	1
⑨多様性に富んだ世界の人々との共生		p. 106-109	2
2章 地球的課題と国際協力			
1節 持続可能な社会を目指して			
①持続可能な開発目標 (SDGs)		p. 110-111	1
②地球的課題の地理的な側面		p. 112-113	1
2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて			
①貧困問題		p. 114-117	1
②人口問題		p. 118-121	1
③食料問題		p. 122-123	1
④持続可能な水の利用		p. 124-125	1
⑤健康・福祉問題		p. 126-127	1
⑥教育・ジェンダー問題	項目 B	p. 128-129	1
3節 自然と調和した豊かな社会に向けて	中項目 (2)		
①技術革新と持続可能な産業化	(2) - ア (ア) (イ),	p. 130-131	1
②限りある資源	(2) - イ (ア)	p. 132-133	1
③エネルギー問題		p. 134-137	1
④都市・居住問題		p. 138-143	1
4節 現役世代と将来世代のための地球			
①地球温暖化問題		p. 144-145	1
②陸地の環境問題		p. 146-147	1
③海洋の環境問題		p. 148-151	1
5節 平和で公正な社会に向けて			
①世界の民族と民族問題		p. 152-153	1
②世界のさまざまな紛争		p. 154-157	1

③さまざまな対立の解決に向けて		p. 158-159	1
④国際協力とパートナーシップ		p. 160-163	1
第3編 持続可能な地域づくりと私たち			
1章 自然環境と防災			
①地球規模で見る地形の姿と自然災害	大項目C	p. 182-183	1
②人々の暮らしを取りまく自然環境	中項目(1)	p. 184-185	1
③変動帯の自然と防災	(1)-ア(ア)(イ), (1)-イ(ア)	p. 186-197	4
④湿潤地域の自然と防災		p. 198-207	4
⑤私たちができる災害への備え		p. 208-211	1
2章 生活圏の調査と地域の展望	大項目C		
①地域調査の方法	中項目(2) (2)-ア(ア), (2)-イ(ア)	p. 212-221	3
		計	65

※年間授業時数を65時間として配当している。